

平成 24 年 №40
春ひがん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
でんわ047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺

東日本大震災より

一年が過ぎて

当山住持

東北地方をはじめ東日本を襲った「東日本大震災」から、一年が過ぎた春彼岸の訪れです。改めて、犠牲となつて亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

この大震災は、死者一万五千八百五十四人・行方不明者三千百五十五人（平成二十四年三月十一日付『朝日新聞』）という、まさに人類史上未曾有の大震災でありました。この大震災で被災された方々、犠牲となられた方々のご家族、ご親戚、さまざまな深いご縁の皆様方におかれましては、今もなお、この上ない悲しみ、苦しみ、悔しさ、無念さ・・・の日々であります。それでも被災地の皆様は、

この逆境に真正面から向き合い、家族や地域社会の復興の為に、歯を食いしばって必死に頑張っていると思います。そのお姿は、大変尊く、励まされたという人も少なくないでしょう。私たちも、この厳しい現実を深く受け止め、決して風化させてはなりません。どこまでも、さらにさらに自分たちができる限りの物心両面にわたる支援を継続していかねければなりません。

また、昨今は私たちが暮らす首都圏、関東地方にも同等の、あるいはそれ以上の規模の大震災が、三十年以内に発生するであろうという報道がなされています。まさに、「明日は我が身」です。いざというときに困窮することがないよう、今回の大震災の教訓を微に入り細にわたってよくよく勉強し、準備をしておかなければならないでしょう。お互いにくれぐれも大震災への用心を・・・。

季節は、春彼岸の好時節です。お釈迦さまが説かれた「人生は苦である」という尊い一句を認識自覚し、彼（か）の岸、理想の世界へと精進してまいりましょう。

合掌

ようやく咲いた今年の
新井寺の梅
photographed by Reiko Matsui





マヤーデヴィー寺院（マヤ堂）とお釈迦さまの産湯に使ったといわれる池

おしやかさまの誕生祭「ブツダ・ジャンテイ」

「お釈迦さまは、『インド』の釈迦族の王子様として誕生され・・・」という話をよく聞きますが、お釈迦さまのご生誕の地が、実は「ネパール」であることをご存知でしょうか。

二五五六年前、お釈迦さまは、お母さまの摩耶夫人（まやぶにん）がお産のために実家へ里帰りされる途中、「ルンビニ」で産気づかれて、お生まれになったと伝えられています。ルンビニは、ネパールの首都カトマンズから約三百キロ西、インドとの国境に近いタライ平原にあります。現在では、摩耶夫人

をおまつりする「マヤーデヴィー寺院（マヤ堂）」を中心に、この地域全体が世界遺産に登録されています。


日本では、お釈迦さまのお誕生日である四月八日に「花まつり」としてお祝いしますが、インドやネパールでは、五月の満月の日に「ブツダ・ジャンテイ」というお釈迦さまの誕生祭が行なわれています。日本でも、都内のご寺院を会場に、駐日ネパール大使館とネワー国際フォーラムジャパン（NIFJ）が共催し、「ブツダ・ジャンテイ」が開かれています。八回目となる今年は、**五月六日（日）**

に、新井寺を会場に「ブツダ・ジャンテイ」が開かれることになりました。ネパールのみなさんが集い、ネパール式のお釈迦さまご生誕の法要などが行なわれます。ネパールの食事もいただくことができます。興味のある方、参加を希望される方はお気軽におたずねください。みなさまのご参加をお待ちしています。

◎「ブツダ・ジャンテイ」

五月六日（日）新井寺において
午前十時から三時ころまで

ネパールの旅のおさそい

 ルンビニ参拝とサパナさんとスニタさんに会いに行こう

昨年の「秋ひがん号」でご案内いたしました「お釈迦さまご生誕の地 ルンビニ参拝とサパナさんとスニタさんに会いに行こう」の旅の詳細が決まりました。サパナさんとスニタさんは、平成二十年四月から約三ヶ月間、新井寺でホームステイ修行していたネパールの尼僧さんです。お釈迦さまご生誕の地ルンビニでは、本年「ルンビニ観光年」として、国を挙げての観光誘致活動が行なわれています。また、ネパール的一般仏教寺院やチベット仏教寺院の参拝、首都カトマンズ世界遺産めぐり・・・などを、さまざまな宗教文化・自然・風土を肌で感じていただける旅となるように企画いたしました。お友だちをお誘いになって、どうぞご参加ください。みなさまのご参加をお待ちしております。

日にち 平成二十四年

十一月四日（日）～九日（金）

費用 二十四万円くらい

◎ 詳細は、別紙をご参照ください。

◎ ご不明な点は、お気軽にお寺へおたずねください。

お彼岸に思う

南アメリカ国際布教総監
両大本山南米別院佛心寺住職

采川道昭

仏のみ教えは、いつも「今と此処(ここ)」を取り上げて説いています。言いかえれば、「あなたは今を生き活きと生きていますか？此処に於いて心にわだかまりがありませんか？納得のいく生き方をしていますか？」ということですよ。

しかしながら、誰もすべてに於いて、あるいはいつも「活き活きとまたわだかまりなく納得して過ごす」ということは至難の業です。なにがしかの不満や納得のいかないことを抱えて

毎日を過ごしているという方が多いのではないのでしょうか。

そこで、できるだけ納得出来るように、また不安や苦悩のない生き方をするための種々のご教示があり、そのみ教えを目に見える形にして種々の行持として行じ、皆様方に広く参加を呼び掛けているのが、お寺で行われる法要なのです。

法要には三佛忌(降誕会、成道会、涅槃会)や開山忌などの代表的な法要のほかには皆様方のご先祖様方への法恩のご供養があります。そのひとつが「お彼岸会」のご供養であることは言うまでもありません。

私たちはご先祖様への法恩感謝のご供養を通して、ご先祖様とひとつにながっていることを改めて自覚し、それによって脈々とつながっている「いのちの尊さ」と「大いなる安心(あんじん)」をいただいております。その安心は、毎日を精一杯生きる力となって私どもを守ってくださいます。

南米ブラジル、サンパウロにある佛心寺(ぶっしんじ)においても、お彼岸のご供養会は「お施食(おせじき・おせがきのこと)」を中心に盛大に行われております。お位牌やお写真のほか、心

をこめて作ったお料理やお菓子、それに果物やお花などのお供え物を持ってお寺にお集まりになります。法要の後は、それぞれが持ち寄りのお料理をいただき、久しぶりに会った友人知人などと、ご先祖様や故人を偲びながら談笑するのもお彼岸の心温まる風景のひとつです。

合掌

これからの新井寺

- 五月六日 ブッダ・ジャンテイ
- 五月二十九日 梅花流全国奉詠大会
- 六月八日 前任職十七回忌法要
- 七月十六日 おせがき
- 九月 秋分の日 秋彼岸会法要
- 十一月四〜九日 ネパールの旅
- 十一月十三日 梅花流千葉県奉詠大会
- 十一月十八日 秋葉火防大祭
- 秋(日にち未定) 半日禅のつどい
- 十二月三十一日 年越し坐禅会

月例行事

- 日曜坐禅会(月一回 午後三時)
- 写経会(月一回 午前十時)
- 梅花講(月二回 午後一時半)

日にはおたずねください
いつからでもどなたでも
参加いただけます
ご参加をお待ちしています



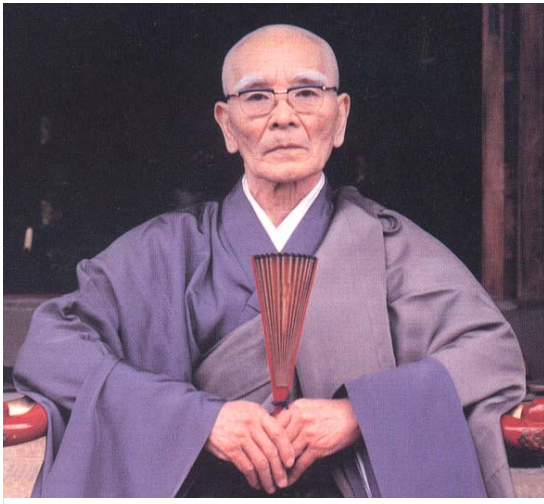
采川老師がご住職を勤められている
南米ブラジルのサンパウロにある
両大本山南米別院佛心寺の山門

前任職十七回忌法要

のご案内

来たる六月八日(金)午前十一時より、新井寺の本堂において、前任職新井寺廿八世 中興黙承憲孝大和尚(ちゅうこうもくしょうけんこうだいおし)様の十七回忌報恩法要をお勤めいたします。

前任職は、昭和二十六年四月、当時の曹洞宗管長であられた高階瓏仙禅師(たかしなろうせんぜんじ)様の命を受けて、新井寺に入山(にゅうさん)住職となること)しました。その後、平成七年六月九日に逝去するまでの四十五年間、新井寺に住されました。この間、高階禅師様にお仕えされながら、静岡



前任職 新井寺廿八世
中興黙承憲孝大和尚さま
作務がお好きで とても達筆な和尚さま
までした

県の秋葉総本殿可睡齋にも久しく奉職されました。また、新井寺にあっても、檀信徒の皆様の為に、新井寺の為に、秋葉堂の新築をはじめ、本堂・位牌堂・客殿・庫裏大改築を完遂し、さらには、墓地や境内地の整備など、すべてを成し遂げ、今日の新井寺の礎(いしずえ)を築いてくださいました。「中興(ちゅうこう)」とは、お寺を復興されたことへの尊称です。

ご先祖さまあつての私たち、皆様方でも、新井寺です。どうぞ、ひとりでも多くの檀信徒の皆様に前任職の法徳を偲んでおまいりいただきますよう、ご案内申し上げます。
合掌(住職しるす)

庫裏が完成しました

おかげさまで、暮れに庫裏が完成しました。このお彼岸に客殿とのつなぎ工事もとのいきました。これからは、お線香やご法事のお申し込みなど、もろもろの受付は、以前同様、庫裏の玄関にて行ないます。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。



編集後記



新井寺の境内には、梅の木がたくさんあります。今年もようやく、花が咲きはじめました。例年よりも、ひと月半くらい遅い開花です。道元禅師さまのお師匠さま 浄禅師さまに「梅開早春」というおことばがあります。「梅、早春を開く」と読みます。春になったから梅が咲くのではなく、梅が咲いたから春なのだ。わたしは、毎年 梅の季節がやってくる、このおことばを思い出します。そして、花が咲きはじめる春が近づいていることを感じます。どんなに寒さのきびしい冬であっても、必ず春はやってくる。ようやく咲いてくれた梅の花に、そんな声を聞いたような気がします。それは、どんなにきびしい現実にあっても、その向こうにはきつとやわらかく穏やかな光が射しているんだという、大自然の励ましのような気がします。「梅は寒苦を経て清香を發す」。きびしい寒さを乗り越えて咲いたからこそ、凛とした姿がたのもしく、すがすがしく感じるのかもしれない。境内を歩きながら、梅の花にいろいろなことを教えていただきました。春はもうすぐです。どうぞ、ご自愛ください。